

原発ゼロをめざす長野県連絡会

第25号
2015.10.16

事務局 〒381-0034 長野市高田 276-8 長野県労連内
TEL 026-223-1683 FAX 026-227-1783
ホームページ <http://kenrouren.assrv.com/genpatsu0/>

豪雨について、1300人が結集—なくそテ原発・柏崎大集会—

—長野県からも12名が参加

出力820万kwの世界最大の原発＝柏崎刈羽原発。地元商工会議所や商工会が早期再稼働を求める請願を、柏崎市議会・刈羽村議会が採択するという緊張が続く10月11日、「なくそテ原発・柏崎大集会」が、原発立地近くの海浜公園で1300人の参加のもとで大きく盛り上がりました。長野県からは飯水地区から7名、長野市から5名、合計12名が参加しました。



今にも降り出しそうな空模様の中、午後1時、植木史将実行委員長の「福島・被災者の苦しみを原点に、柏崎刈羽原発再稼働中止の知事宛署名に全力でとりくみましょう」との主催者あいさつで集会が始まりました。

—東電・政府は、責任の放棄

リレートークは4人の方が登壇。小さな子どもを背負った柏崎市の佐藤ふじえさんは、「原発再稼働賛成の人とも、子どもたちの未来のため話し合いを深めたい」と語り、福島から新潟に避難している高橋真由美さんは「家族がちりぢりになり、家族の人生を狂わせられた。健康診断のたびに、子どもの甲状腺がんの不安と心配に悩まされる」と、今も続く被災者の厳しい生活状況と追いつめられた心理的・精神的な疲労等々が語られました。

また、「市民発電・おらって新潟」の渡辺勝美さんは「原発に頼らない太陽光発電を23か所につくり、原発ゼロをめざしている」とのとりくみが、JA佐渡からは「農業と原発は共存できない」とのメッセージ届けられました。

—福島原発告訴団長が、2つの観点を強調

メインスピーチは、福島原発告訴団長の武藤類子さんが行い、収束宣言などとんでもない欺瞞であり、放射性廃棄物の処理問題、汚染水の処理・海洋への大量の流出の問題、放射線量の残る地元への帰還政策、避難者が借り上げている住宅補償の廃止や賠償の打ち切りなど、政府の冷たい仕打ちと何一つとして解決していない実態がリアルに報告されました。そして、原発事故の責任追及の観点として、2つのことが強調されました。第1は「事故は予見することができたこと」であり、第2に「事故は回避することができたこと」です。最後に、「どんなことがあってもあきらめないで、力を合わせる事が重要」と結ばれました。



—参加者を励ます「制服向上委員会」

元気はつらつな高校生のアイドルグループ・「制服向上委員会」が、原発政策と安倍首相への批判と苦言を歌とトークで楽しく訴えられ、会場に元気と活力がみなぎる一幕となりました。このころから、強烈な豪雨が襲来。結局デモ行進は中止となりました。

最後に、「私たちは、東京電力・柏崎刈羽原発の再稼働をさせず、廃炉への運動を今後もいっそう発展させる」との集会宣言を万雷の拍手で採択し、集会を閉じました。